

新規採用職員研修会

東部支部

月日 令和三年六月十一日

会場 沼津市民文化センター

参加者 五十二名

本来は新規採用予定者研修会として令和三年二月に、三島市立箱根の里において一泊二日で開催する予定でした。しかし、二月時点もまだまだコロナに振り回され、結果として研修生たちは学校を卒業して、すでに現場デビューしている六月に新規採用職員研修会として開催されることになりました。

コロナ禍での研修会ということで開催形式や開催内容を大幅に変え、集合研修は一日のみとし、それに加えて集合研修の当日までに事前に配属先の園でWEBによる講義の視聴を組み合わせた研修会となりました。

まず配属先の園でWEB視聴する講義ですが、県保育連合会会長・三島市白道保育園園長である土山雅之先生による「保育所・認定こども園の使命と役割」でした。コロナ禍における保育所・認定こども園の役割は「働く親にとってのライフライン」として存在しています。しかしコロナ禍における保育「三密を避ける保育」は子どもの発達のためにはマイナス要素が多いことを心配されています。また研修生たちへ「社会人としての自覚と行動、組織の一員としての義務と責任、社

会人として職場で求められる能力」等についてお話がありました。

次に県保育士会会長・長泉町聖心保育園園長である吉川慶子先生による「保育者としての自覚と責務」でした。私たち保育者は専門職集団であり、専門職だからこそ保育者の質・保育者自身の存在が問われるというお話を頂きました。また保育者は「自分を高める」倫理観を高めることが大事であるとのことでした。そして保育者は子どもに寄り添う気持ちと、保育者同士で学び合いスキルを磨きキャリアを積むことを忘れてはいけないとのことでした。

集合研修当日の最初の講義は「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」でした。NPO法人浜松子どもとメディアリテラシー研究所代表の長澤弘子氏により、情報を理解し活用する力を学びました。子どもインターネット利用についてのお話を聞き、インターネットによる子どもの疲労・依存等の怖さ、またこのことを私たち保育者は保護者へ伝えていかなければならないというお話でした。

次の講義は(有)アップハート代表の勝又ひで子氏による「社会人として一番大切なこと」～人間関係と服務接遇～でした。社会人は相手に好印象を持ってもらうことが大切であり、保育者は園の代表者だという意識を常

に持ち、挨拶や表情・態度や話し方等の基本姿勢を意識することが大事とのことでした。保護者がどうすれば心地良いか、どうすれば満足できるかを考え「おもてなし」の気持ちを持って行動していくべきとのことでした。

実行委員長 すみれ保育園 鷹野一広



中部支部

月日 令和三年六月九日～十日

会場 静岡音楽館A O I

参加者 六十一名

令和三年二月十六日・十七日焼津青少年の家で宿泊で予定されていた研修は、コロナ禍により中止となりましたが、六月に二日間の通いで会場をA O Iに移して実施することができました。

講義一は、県保育連合会中部支部長の私、海野が「保育所の使命と役割」というテーマで保育所の法的な位置づけ、社会的な使命についてお話ししました。

講義二では吉川慶子静岡県保育士会会長より「保育者としての役割」というテーマで保育者としての服務規律や危機管理意識、社会人としての心構えなど講演いただきました。

午後は明星保育園の櫻井英世先生の手遊び・歌遊びの実技指導がありました。乳児から幼児までそれぞれの年齢にあったものが紹介されました。密にならない、大きな声を上げないなど感染対策での制約のある中でしたが、手元で遊べるもの、布や手作りおもちゃを使ったもの、わらべ歌を中心に保育の場ですぐ持ち帰えられる内容に参加者たちは笑顔笑顔になりました。

続いて今年からのプログラムで「保育に活用できる布おもちゃ作りを学ぶ」というテーマで布育普及協会代表のさとうゆきこ先生のご指導でおもちゃ作りをしました。針と糸を

使うのがちよつと新鮮な皆さんもいて、少しドキドキ、時間内にみんなが作れるように、キットに工夫がされていて、出来上がったものを嬉しそうに眺める研修生も…。乳幼児にとつての物（おもちゃ）とのかかわりの大切さや、布おもちゃを作るときの留意点なども併せて教えていただきました。



一日目の最後は、元研修生の言葉という事で、就職一年目の隣人会保育園の川崎安寿佳さん、六年目のこばと保育園の鈴木舞さんか

ら体験談を含め新任の皆さんに元気の出るお話を伺いました。

二日目講義三は、コーチングネットワーク静岡代表の土方良子先生による「自分自身を棚卸し、保育者としての在り方、身だしなみを学ぶ。今抱えている不安を取り除き、保育者としての自信を持つ」という内容での学びでした。今回は、実際に2か月余りですが、働き始めているという事で、土方先生も視点を変え、問題のとらえ方や、前向きな姿勢で取り組めるよう、ワークを交えて講義を用意してくださいました。

講義四は駿河こどものとも社代表の高林快晴氏による「子どもと絵本」というテーマで、絵本の楽しみ方、保育におけるその活用を、お話しいただきました。〇歳から六歳のそれぞれの年齢の興味、関心、発達に即して選べる絵本の紹介はすぐに保育の場で参考になる内容でした。また、幼いころに出会っていた絵本が紹介されると懐かしそうに楽しんでいました。絵本の世界から遊びが始まる事例も楽しく伺いました。

最後に、実行委員が研修初めに集めたアンケートについてアドバイスする時間をもうけました。宿泊研修では、一日目の終わりに各宿泊室で、班担当の実行委員が、研修生の話を聞き取り、話し合う時間がありました。今回グループではかかないませんでした。話を聞きながら、うんうんとうなずき同意の様子の研修生。子どもたちから元気はいっぱいもらっているが、応えられているか？一職員と

して働けているか?と謙虚な思いを受け止めました。

コロナ禍による制約があった研修会でしたが、感染対策を万全にし、集合して研修ができたこと感謝です。ご協力ありがとうございました。今回の研修が少しでも皆さんの保育に活かされればと思います。実行委員一同、皆さんの毎日を応援しています。

終わりに、講師の先生方や実行委員の皆様のおかげで新採研が無事に終了できましたことをここに感謝申し上げます。

実行委員長 一番町保育園 海野美代子



西部支部

月 日 令和三年五月二十日～二十一日

参加者 九十名

例年二月に二泊三日で行っていた西部支部の新規採用予定職員研修会ですが、新型コロナウイルス感染症対策のため、五月二十日～

二十一日の二日間の内容に改め、新規採用職員研修会として開催する予定でした。

ところが、五月のゴールデンウィークが開けたころから湖西市、浜松市を中心に西部支部管内で感染が急増し、急遽Zoomを利用しての開催となりました。参加者及び所属する園の皆さまには対応していただき、感謝申し上げます。

一つ目の講義は西部支部の岡田泰稔支部長より「保育所・認定こども園の使命と役割」というテーマで講義をしていただきました。静岡県保育連合会の活動や役割について学ぶ機会となりました。現役の園長としての職員への思いも聞くことが出来ました。

二つ目の講義は静岡県保育士会の吉川慶子会長より「保育者としての自覚と責務」というテーマで講義をしていただきました。保育士の成り立ちや全国保育士会や各支部を含む活動と役割について学ぶ機会となりました。保育のしおりを通して、改めて子どもたちの最も身近な人的環境となる保育者の心構えやあり方について認識を深めることが出来ました。

三つ目の講義は浜松こどもとも社の安田友昭氏に「子どもと絵本をひらくとき」というテーマで講義をしていただきました。保育の中で欠かすことが出来ない絵本について、作る側の視点から話を聞き、非常に興味深い講義となりました。魅力的な本の選び方、子どもが絵本の世界観を楽しめる読み聞かせ方など、絵本を読むだけでは得られない知識を

得ることが出来ました。絵本の中に隠された仕掛けについても話を聞き、作者、編集者の遊び心に感動しました。

四つ目の講義は桜ヶ丘病院歯科口腔外科医師の田中佑一郎氏に「保育現場における感染症対策の在り方」というテーマで講義をしていただきました。普段聞くことが出来ない医師による専門的な講義であり、貴重な経験となりました。難しい話もありましたが、今聞けべき話を聞くことが出来ました。基本的な感染症対策である、マスクと手洗いの重要性を再認識できました。

五つ目の講義は有限会社アップハートの勝又ひでこ氏に「社会人として一番大切なこと～人間関係と服務接遇～」というテーマで講義していただきました。挨拶や身なりを整える重要性、誰もが気持ち良くなる表情など、学生とは違う、社会人としての振る舞いを学ぶことが出来ました。

最後の講義は浜松子どもとメディアリテラシー研究所の長澤弘子氏に「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について～最近のネット・ケータイ・スマホ～」というテーマで講義していただきました。非常に身近な存在となったネットやSNSですが、そこに潜む危険性について知ることが出来ました。

リモートでの研修は不慣れという先生も多々、やりにくい点もあったかと思いますが、集合型の研修と変わらぬ情熱で講義していただき、非常に効果的な研修となりました。

実行委員長 ひくまこども園 山田佳敬

新規採用職員研修会

本部会場

月日 令和三年五月二十四日～二十五日

参加者 三十八名

集合で開催予定でした新規採用職員研修会ですが、新型コロナウイルス感染症対策のため、急遽Zoomを利用しての開催となりました。

一つ目の講義は、静岡県保育連合会の土山雅之会長より「保育所・認定こども園等の使命と役割」というテーマで講義をしていただきました。静岡県保育連合会の役割や各委員会の取り組みも含む活動について学ぶ機会となりました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり更に加速している人口減少を始め、保育を取り巻く環境の急速は変化について話を聞くことが出来ました。

二つ目の講義は、静岡県保育士会の吉川慶子会長より「保育者の使命と役割」というテーマで講義をしていただきました。保育の質の向上のために保育士会が研修事業に取り組んでいることがわかりました。子どもたちの健やかな成長のために、自分たちがどういう意識で保育に取り組まなければいけないかを学ぶことが出来ました。

三つ目の講義は日本社会事業大学地域貢献センター客員教授小沼肇氏より「『新人保育者』の責任とプライドー責任重大！かわいい子どもたちの人生がー」というテーマで講義をしていただきました。小沼先生自身の子

どもたちへの深い愛情が感じられる内容であり、子どもたち一人ひとりを理解し、支援していくために必要なことに気づかされる研修内容でした。

四つ目の講義は、浜松子どもとメディアリテラシー研究所代表の長澤弘子氏より「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」最近のネット・ケータイ・スマホ」というテーマで講義していただきました。SNSは便利で楽しいばかりではなく、その裏には大きな危険が潜んでおり、軽い気持ちですってしまったことが、取り返しのつかないことにつながってしまう可能性があることを学ぶことが出来ました。

五つ目の講義は(株)駿河こどものとも社取締役高林快晴氏より「子どもと絵本」というテーマで講義をしていただきました。

最後の講義は、コーチングネットワーク静岡代表土方良子氏より「保育者としてあり方／職務接遇」というテーマで講義をしていただきました。冒頭にて、講師より「終わり方を丁寧にすること、開始の状況は過ぎたことで、終了時に後悔しないためです」との抗議に対する取り組む姿勢について説明がありました。そして、参加している職員の今現在の気持ちを書き出

すところから始まり、保育所は、一つのチームと捉え、互いの価値観を受け入れる事の大切さ、また、保育者の悩みの中で出た保護者に対しての心構えを自身の経験をふまえて丁寧に説明してくれました。また、スタッフとして参加していた現役の園長先生方からも色々な考え方やアドバイスなども聞くことが出来、他園での取り組みや考え方を聞く事が出来た貴重な機会になったと思います。この講義の最後に「考え方、捉え方次第で、あなたの気持ちや行動は必ず変わります。」との言葉で終了し、現在の状況を前向きに捉え、発展していこうとする気持ちが大切だということに気づきました。

